

## **インストールガイド(Linux編)**

# **ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5 他社機版ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5**

- 1章 概 要**
- 2章 インストール**
- 3章 アンインストール**
- 4章 付 録**

---

# 目 次

---

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| 目 次                         | 2  |
| 本書で使う表記                     | 3  |
| 本文中の記号                      | 3  |
| 外来語のカタカナ表記                  | 3  |
| 商 標                         | 4  |
| オープンソースソフトウェア               | 4  |
| 本書についての注意、補足                | 5  |
| 最新版                         | 5  |
| <b>1 章 概 要</b>              | 6  |
| <b>1.</b> はじめに              | 7  |
| <b>2.</b> 動作環境              | 8  |
| <b>2 章 インストール</b>           | 9  |
| <b>1.</b> インストールを始める前に      | 10 |
| <b>1.1</b> インストール前の設定       | 10 |
| 1.1.1 必要なパッケージの確認           | 10 |
| 1.1.2 snmpd.conf の設定        | 15 |
| 1.1.3 snmpd の設定             | 16 |
| 1.1.4 rpcbind の設定           | 16 |
| <b>2.</b> インストールまたはアップグレード  | 17 |
| <b>3.</b> インストールを終えた後に      | 20 |
| <b>3.1</b> インストール後の設定       | 20 |
| 3.1.1 アクセス制御の設定             | 20 |
| 3.1.2 SELinux の設定           | 21 |
| <b>3.2</b> マネージャ通報(SNMP)の設定 | 23 |
| <b>3 章 アンインストール</b>         | 25 |
| <b>1.</b> アンインストール          | 26 |
| <b>4 章 付 録</b>              | 27 |
| <b>1.</b> ライセンス条文           | 28 |

---

## 本書で使う表記



---

---

### 本文中の記号

---

本書では以下の記号を使用しています。この記号は、次のような意味があります。

|   |   |
|---|---|
|  | ソフトウェアの操作などにおいて、確認しておかなければならないことについて示しています。 |
|  | 知っておくと役に立つ情報、便利なことについて示しています。               |

---

### 外来語のカタカナ表記

---

本書では外来語の長音表記に関して、国語審議会の報告を基に告示された内閣告示に原則準拠しています。ただし、OS やアプリケーションソフトウェアなどの記述では準拠していないことがあります。誤記ではありません。

---

## 商 標

---

ESMPRO は日本電気株式会社の登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における商標または登録商標です。

Red Hat、Red Hat Enterprise Linux は、米国 Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載の会社名および商品名は各社の商標または登録商標です。

なお、本文には登録商標や商標に(TM)、(R)マークは記載しておりません。

---

## オープンソースソフトウェア

---

本製品には、以下のライセンスに基づき許諾されるオープンソースソフトウェアが含まれます。

| OSS 名          | ライセンス            | モジュール名                              |
|----------------|------------------|-------------------------------------|
| Net-SNMP-5.9.4 | Net-SNMP License | ntagent<br>(Esmpro-common パッケージ)    |
|                |                  | ntpass.so<br>(Esmpro-common パッケージ)  |
|                |                  | libutil.so<br>(Esmpro-common パッケージ) |

ライセンス条文については、4 章(1. ライセンス条文)を参照してください。

---

## 本書についての注意、補足

---

1. 本書の一部または全部を無断転載することを禁じます。
2. 本書に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 弊社の許可なく複製、改変することを禁じます。
4. 本書について誤記、記載漏れなどお気づきの点があった場合、お買い求めの販売店までご連絡ください。
5. 運用した結果の影響については、4 項に関わらず弊社は一切責任を負いません。
6. 本書の説明で用いられているサンプル値は、すべて架空のものです。

この説明書は、必要なときすぐに参照できるよう、お手元に置いてください。

---

## 最新版

---

本書は作成日時点の情報をもとに作られており、画面イメージ、メッセージ、または手順などが**実際のも**  
**と異なる場合があります。**変更されているときは適宜読み替えてください。

# ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5 他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5

---

# 1

## 概 要

ESMPRO/ServerAgent について説明します。

### 1. はじめに

ESMPRO/ServerAgent について説明しています。

---

# 1. はじめに

---

本書ではサーバー管理ソフトウェア「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS (Linux)」または「他社機版 ESMPRO/ServerAgent (Linux)」のインストールについて説明しています。

本製品を正しくお使いいただくために、お使いになる前に本書をよくお読みください。

本書での内容は、Linux OS の機能、操作方法について十分に理解されている方を対象に説明しています。Linux OS に関する操作、不明点については、Linux OS のヘルプなどを参照してください。

製品バージョンにより、対象 OS が異なります。動作環境については、最新の情報を次のウェブサイト公開しておりますので、参照してください。

<https://jpn.nec.com/esmsm/kankyo.html>

## 2. 動作環境

ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5, 他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5 には、Linux 版 ESMPRO/ServerAgent Ver.4.6.3-1 を同梱しております。  
本バージョンでサポートするソフトウェアは以下のとおりです。



動作環境については、最新の情報を次のウェブサイトに掲載しておりますので、参照してください。

また、製品バージョンにより、サポート OS が異なりますので、ご注意ください。

<https://jpn.nec.com/esmsm/kankyo.html>

### ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5

仮想基盤：

Hyper-V

- Windows Server 2012 R2 Hyper-V
- Windows Server 2016 Hyper-V
- Windows Server 2019 Hyper-V
- Windows Server 2022 Hyper-V
- Windows Server 2025 Hyper-V

VMware ESX/ESXi

- VMware ESXi 6.0, 6.5, 6.7
- VMware ESXi 7.0
- VMware ESXi 8.0
- VMware ESX 9.0

RHEL KVM (Kernel-based Virtual Machine)

- Red Hat Enterprise Linux 8 (x86\_64)
- Red Hat Enterprise Linux 9 (x86\_64)
- Red Hat Enterprise Linux 10 (x86\_64)

オペレーティングシステム：

- Red Hat Enterprise Linux 8 (x86\_64)
- Red Hat Enterprise Linux 9 (x86\_64)
- Red Hat Enterprise Linux 10 (x86\_64)

### 他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5

オペレーティングシステム：

- Red Hat Enterprise Linux 8 (x86\_64)
- Red Hat Enterprise Linux 9 (x86\_64)
- Red Hat Enterprise Linux 10 (x86\_64)

### 管理ソフトウェア

本製品を管理するソフトウェア：

ESMPRO/ServerManager (Windows)



最新バージョンの ESMPRO/ServerManager(Windows)を使用することを推奨します。  
以下のウェブサイトから入手できます。

<https://jpn.nec.com/esmsm/download.html>



# ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5 他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5

# 2

## インストール

ESMPRO/ServerAgent のインストールについて説明します。

### 1. インストールを始める前に

ESMPRO/ServerAgent をインストールする前に必要な設定について説明しています。

### 2. インストール

ESMPRO/ServerAgent のインストール手順について説明しています。

### 3. インストールを終えた後に

ESMPRO/ServerAgent のインストールした後に必要な設定について説明しています。

---

# 1. インストールを始める前に

---

ESMPRO/ServerAgent のインストールを始める前に必ずお読みください。

---

## 1.1 インストール前の設定

---

インストール前の設定は次のとおりです。

### 1.1.1 必要なパッケージの確認

---

ESMPRO/ServerAgent が動作するためには、以下の表にあるパッケージが必要です。

ESMPRO/ServerAgent をインストールする環境と同じアーキテクチャーまたはアーキテクチャーに依存しない noarch のパッケージをインストールしてください。パッケージ名は、次の規則により命名されています。

<パッケージ名>-<バージョン番号>-<リリース番号>.<アーキテクチャー>.rpm

<確認方法>

パッケージ一覧を参照して、パッケージのインストールを確認します。

```
# rpm -q パッケージ名 --qf '%{name}-%{version}-%{release}.%{arch}.rpm\n'
```

パッケージには依存関係がありますので、表中「Grp1→Grp2」の順または一括でインストールしてください。

Linux サービスセットでは Red Hat Enterprise Linux を運用しているシステムに、パッケージを適用する手順について、情報を公開しておりますので、こちらを参照してください。

インターネット接続している環境で、パッケージを追加/アップデートする場合

[RHEL]Red Hat Enterprise Linux yum 運用の手引き【Linux サービスセットご契約のお客様限定】

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140000177>

インターネット接続していない環境で、パッケージを追加/アップデートする場合

[RHEL]RPM パッケージ適用の手引き【Linux サービスセットご契約のお客様限定】

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3140000129>



最新の必須パッケージ一覧は、以下のウェブサイト公開しています。

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3170102037>

ESMPRO/ServerAgent (Linux 版) 必須パッケージ一覧

## Red Hat Enterprise Linux 10

- Red Hat Enterprise Linux 10 インストール媒体にあるパッケージのディレクトリは BaseOS/Packages/ と AppStream/Packages があります。
- (\*1) 対象の RPM パッケージファイルには相互依存の関係があります。  
下記表中に(\*1)のある RPM パッケージファイルを任意のディレクトリにコピーした後、以下のコマンドで同時に RPM パッケージファイルを指定し、インストールします。  
BaseOS/Packages と AppStream/Packages の両方に格納されている場合、BaseOS/Packages 配下のパッケージをインストールしてください。
- ```
# rpm -ivh perl*.rpm
```
- (\*2) 最小構成でインストールされるパッケージです。  
マイナーバージョンで異なる場合があります。

| Group | パッケージ名                     | アーキテクチャー    | パッケージ名                 | アーキテクチャー    |
|-------|----------------------------|-------------|------------------------|-------------|
| Grp1  | mariadb-connector-c-config | noarch      |                        |             |
| Grp2  | checkpolicy                | x86_64 (*2) | perl-PathTools         | x86_64 (*1) |
|       | lm_sensors-libs            | x86_64      | perl-Pod-Escapes       | noarch (*1) |
|       | mariadb-connector-c        | x86_64      | perl-Pod-Perldoc       | noarch (*1) |
|       | net-snmp-libs              | x86_64      | perl-Pod-Simple        | noarch (*1) |
|       | perl-AutoLoader            | noarch (*1) | perl-Pod-Usage         | noarch (*1) |
|       | perl-B                     | x86_64 (*1) | perl-Scalar-List-Utils | x86_64 (*1) |
|       | perl-Carp                  | noarch (*1) | perl-SelectSaver       | noarch (*1) |
|       | perl-Class-Struct          | noarch (*1) | perl-Socket            | x86_64 (*1) |
|       | perl-Data-Dumper           | x86_64 (*1) | perl-Storable          | x86_64 (*1) |
|       | perl-Digest                | noarch (*1) | perl-Symbol            | noarch (*1) |
|       | perl-Digest-MD5            | x86_64 (*1) | perl-Term-ANSIColor    | noarch (*1) |
|       | perl-DynaLoader            | x86_64 (*1) | perl-Term-Cap          | noarch (*1) |
|       | perl-Encode                | x86_64 (*1) | perl-Term-ReadLine     | noarch (*1) |
|       | perl-Errno                 | x86_64 (*1) | perl-Text-ParseWords   | noarch (*1) |
|       | perl-Exporter              | noarch (*1) | perl-Text-Tabs+Wrap    | noarch (*1) |
|       | perl-Fcntl                 | x86_64 (*1) | perl-Time-Local        | noarch (*1) |
|       | perl-File-Basename         | noarch (*1) | perl-URI               | noarch (*1) |
|       | perl-File-Copy             | noarch (*1) | perl-base              | noarch (*1) |
|       | perl-File-Path             | noarch (*1) | perl-constant          | noarch (*1) |
|       | perl-File-Temp             | noarch (*1) | perl-if                | noarch (*1) |
|       | perl-File-stat             | noarch (*1) | perl-interpreter       | x86_64 (*1) |
|       | perl-FileHandle            | noarch (*1) | perl-libnet            | noarch (*1) |
|       | perl-Getopt-Long           | noarch (*1) | perl-libs              | x86_64 (*1) |
|       | perl-Getopt-Std            | noarch (*1) | perl-locale            | noarch (*1) |
|       | perl-HTTP-Tiny             | noarch (*1) | perl-mro               | x86_64 (*1) |
|       | perl-IO                    | x86_64 (*1) | perl-overload          | noarch (*1) |
|       | perl-IO-Socket-IP          | noarch (*1) | perl-overloading       | noarch (*1) |
|       | perl-IO-Socket-SSL         | noarch (*1) | perl-parent            | noarch (*1) |
|       | perl-IPC-Open3             | noarch (*1) | perl-podlators         | noarch (*1) |
|       | perl-MIME-Base64           | x86_64 (*1) | perl-vars              | noarch (*1) |
|       | perl-Mozilla-CA            | noarch (*1) | python3-audit          | x86_64 (*2) |

|      |                     |             |                              |             |
|------|---------------------|-------------|------------------------------|-------------|
|      | perl-Net-SSLeay     | x86_64 (*1) | python3-libsemanage          | x86_64 (*2) |
|      | perl-POSIX          | x86_64 (*1) | python3-setools              | x86_64 (*2) |
| Grp3 | libtirpc            | x86_64      | python3-policycoreutils      | noarch (*2) |
|      | net-snmp-agent-libs | x86_64      |                              |             |
| Grp4 | coreutils           | x86_64 (*2) | newt                         | x86_64 (*2) |
|      | dmidecode           | x86_64 (*2) | policycoreutils-python-utils | noarch (*2) |
|      | e2fsprogs           | x86_64 (*2) | rpcbind                      | x86_64      |
|      | glibc               | x86_64 (*2) | sed                          | x86_64 (*2) |
|      | libstdc++           | x86_64 (*2) | slang                        | x86_64 (*2) |
|      | net-snmp            | x86_64      | systemd                      | x86_64 (*2) |
|      | net-snmp-utils      | x86_64      | tar                          | x86_64      |
|      | net-tools           | x86_64      |                              |             |

## Red Hat Enterprise Linux 9

- Red Hat Enterprise Linux 9 インストール媒体にあるパッケージのディレクトリは BaseOS/Packages/ と AppStream/Packages があります。
- (\*1) 対象の RPM パッケージファイルには相互依存の関係があります。  
下記表中に(\*1)のある RPM パッケージファイルを任意のディレクトリにコピーした後、以下のコマンドで同時に RPM パッケージファイルを指定し、インストールします。  
BaseOS/Packages と AppStream/Packages の両方に格納されている場合、BaseOS/Packages 配下のパッケージをインストールしてください。  
# rpm -ivh perl\*.rpm
- (\*2) 最小構成でインストールされるパッケージです。  
マイナーバージョンで異なる場合があります。

| Group | パッケージ名                     | アーキテクチャー    | パッケージ名                 | アーキテクチャー    |
|-------|----------------------------|-------------|------------------------|-------------|
| Grp1  | mariadb-connector-c-config | noarch      |                        |             |
| Grp2  | checkpolicy                | x86_64      | perl-Pod-Simple        | noarch (*1) |
|       | lm_sensors-libs            | x86_64      | perl-Pod-Usage         | noarch (*1) |
|       | mariadb-connector-c        | x86_64      | perl-Scalar-List-Utils | x86_64 (*1) |
|       | net-snmp-libs              | x86_64      | perl-SelectSaver       | noarch (*1) |
|       | perl-B                     | x86_64 (*1) | perl-Socket            | x86_64 (*1) |
|       | perl-Carp                  | noarch (*1) | perl-Storable          | x86_64 (*1) |
|       | perl-Class-Struct          | noarch (*1) | perl-Symbol            | noarch (*1) |
|       | perl-Data-Dumper           | x86_64 (*1) | perl-Term-ANSIColor    | noarch (*1) |
|       | perl-Encode                | x86_64 (*1) | perl-Term-Cap          | noarch (*1) |
|       | perl-Errno                 | x86_64 (*1) | perl-Term-ReadLine     | noarch (*1) |
|       | perl-Exporter              | noarch (*1) | perl-Text-ParseWords   | noarch (*1) |
|       | perl-Fcntl                 | x86_64 (*1) | perl-Text-Tabs+Wrap    | noarch (*1) |
|       | perl-File-Basename         | noarch (*1) | perl-Time-Local        | noarch (*1) |
|       | perl-File-Copy             | noarch (*1) | perl-constant          | noarch (*1) |
|       | perl-File-Path             | noarch (*1) | perl-if                | noarch (*1) |
|       | perl-File-Temp             | noarch (*1) | perl-interpreter       | x86_64 (*1) |
|       | perl-File-stat             | noarch (*1) | perl-libs              | x86_64 (*1) |
|       | perl-Getopt-Long           | noarch (*1) | perl-mro               | x86_64 (*1) |

|      |                     |             |                              |             |
|------|---------------------|-------------|------------------------------|-------------|
|      | perl-Getopt-Std     | noarch (*1) | perl-overload                | noarch (*1) |
|      | perl-HTTP-Tiny      | noarch (*1) | perl-overloading             | noarch (*1) |
|      | perl-IO             | x86_64 (*1) | perl-parent                  | noarch (*1) |
|      | perl-IPC-Open3      | noarch (*1) | perl-podlators               | noarch (*1) |
|      | perl-MIME-Base64    | x86_64 (*1) | perl-sub                     | noarch (*1) |
|      | perl-POSIX          | x86_64 (*1) | perl-vars                    | noarch (*1) |
|      | perl-PathTools      | x86_64 (*1) | python3-audit                | x86_64      |
|      | perl-Pod-Escapes    | noarch (*1) | python3-libsemanage          | x86_64      |
|      | perl-Pod-Perldoc    | noarch (*1) | python3-setools              | x86_64      |
| Grp3 | libtirpc            | x86_64      | python3-policycoreutils      | noarch      |
|      | net-snmp-agent-libs | x86_64      |                              |             |
| Grp4 | coreutils           | x86_64 (*2) | newt                         | x86_64 (*2) |
|      | dmidecode           | x86_64 (*2) | policycoreutils-python-utils | noarch      |
|      | e2fsprogs           | x86_64 (*2) | rpcbind                      | x86_64      |
|      | glibc               | x86_64 (*2) | sed                          | x86_64 (*2) |
|      | libstdc++           | x86_64 (*2) | slang                        | x86_64 (*2) |
|      | net-snmp            | x86_64      | systemd                      | x86_64 (*2) |
|      | net-snmp-utils      | x86_64      | tar                          | x86_64      |
|      | net-tools           | x86_64      |                              |             |

## Red Hat Enterprise Linux 8

- Red Hat Enterprise Linux 8 インストール媒体にあるパッケージのディレクトリは BaseOS/Packages/ と AppStream/Packages があります。
- (\*1) 対象の RPM パッケージファイルには相互依存の関係があります。  
下記表中に(\*1)のある RPM パッケージファイルを任意のディレクトリにコピーした後、以下のコマンドで同時に RPM パッケージファイルを指定し、インストールします。  
BaseOS/Packages と AppStream/Packages の両方に格納されている場合、BaseOS/Packages 配下のパッケージをインストールしてください。  
# rpm -ivh perl\*.rpm
- (\*2) 最小構成でインストールされるパッケージです。  
マイナーバージョンで異なる場合があります。

| Group | パッケージ名                     | アーキテクチャー    | パッケージ名                 | アーキテクチャー    |
|-------|----------------------------|-------------|------------------------|-------------|
| Grp1  | mariadb-connector-c-config | noarch      |                        |             |
| Grp2  | lm_sensors-libs            | x86_64      | perl-libs              | x86_64 (*1) |
|       | mariadb-connector-c        | x86_64      | perl-macros            | x86_64 (*1) |
|       | net-snmp-libs              | x86_64      | perl-parent            | noarch (*1) |
|       | perl-Carp                  | noarch (*1) | perl-PathTools         | x86_64 (*1) |
|       | perl-constant              | noarch (*1) | perl-Scalar-List-Utils | x86_64 (*1) |
|       | perl-Errno                 | x86_64 (*1) | perl-Socket            | x86_64 (*1) |
|       | perl-Exporter              | noarch (*1) | perl-Text-Tabs+Wrap    | noarch (*1) |
|       | perl-File-Path             | noarch (*1) | perl-threads           | x86_64 (*1) |
|       | perl-interpreter           | x86_64 (*1) | perl-threads-shared    | x86_64 (*1) |
|       | perl-IO                    | x86_64 (*1) | perl-Unicode-Normalize | x86_64 (*1) |
| Grp3  | net-snmp-agent-libs        | x86_64      | perl-Data-Dumper       | x86_64 (*1) |

|      |                |             |           |             |
|------|----------------|-------------|-----------|-------------|
| Grp4 | chkconfig      | x86_64 (*2) | net-tools | x86_64      |
|      | dmidecode      | x86_64 (*2) | newt      | x86_64 (*2) |
|      | e2fsprogs      | x86_64 (*2) | rpcbind   | x86_64      |
|      | glibc          | x86_64 (*2) | sed       | x86_64 (*2) |
|      | initscripts    | x86_64 (*2) | slang     | x86_64 (*2) |
|      | libstdc++      | x86_64 (*2) | systemd   | x86_64 (*2) |
|      | net-snmp       | x86_64      | tar       | x86_64      |
|      | net-snmp-utils | x86_64      |           |             |

## 1.1.2 snmpd.conf の設定

ESMPRO/ServerManager から ESMPRO/ServerAgent を使用して、サーバーを監視するときは、SNMP を利用します。ESMPRO/ServerManager からのローカルポーリング、およびしきい値の変更機能を使う場合、SNMP 環境設定ファイル(/etc/snmp/snmpd.conf)を変更し、ESMPRO MIB に対して、コミュニティの権利を「read write」に設定して、snmpd を再起動します。

上記の機能を使わない場合、「read」権限のままで問題ありません。

ESMPRO/ServerAgent は、rpm コマンドでインストールされた時に ESMPRO MIB と Ethernet Like MIB の SNMP 要求に対応するため、次の情報を snmpd.conf に追加します。

```
dlmod ntpass /opt/nec/esmpo_sa/lib/ntpss.so
ntpass .1.3.6.1.4.1.119.2.2.4.4          (ESMPRO MIB)
ntpass .1.3.6.1.2.1.10.7                (Ethernet Like MIB)
```

次の設定例は、既定値のコミュニティ(public)のすべての MIB(.1)に対して、「read write」権限を与えます。

```
####
# First, map the community name "public" into a "security name"

#      sec.name  source      community
com2sec notConfigUser default public

####
# Second, map the security name into a group name:

#      groupName  securityModel securityName
group  notConfigGroup v1      notConfigUser
group  notConfigGroup v2c     notConfigUser

####
# Third, create a view for us to let the group have rights to:
#      name          incl/excl  subtree      mask(optional)
#view  systemview    included    .1.3.6.1.2.1.1
#view  systemview    included    .1.3.6.1.2.1.25.1.1
view   all            included    .1            80

####
# Finally, grant the group read-only access to the systemview view.
#      group          context sec.model sec.level prefix read  write notif
#access notConfigGroup ""      any      noauth   exact systemview none none
access notConfigGroup ""      any      noauth   exact all    all  none
```

各設定内容の詳細につきましては、snmpd.conf のヘルプを参照してください。

snmpd.conf のヘルプは、man コマンドで確認します。

```
# man snmpd.conf
```

### 1.1.3 snmpd の設定

---

snmpd の状態を確認します。

```
# systemctl is-enabled snmpd.service
enabled
```

- enabled のときは、snmpd の設定を変更する必要はありません。

- disabled のときは、snmpd の設定を変更した後、snmpd を起動します。

```
# systemctl enable snmpd.service
ln -s '/usr/lib/systemd/system/snmpd.service'
'/etc/systemd/system/multi-user.target.wants/snmpd.service'
# systemctl start snmpd.service
```

### 1.1.4 rpcbind の設定

---

rpcbind の設定は不要です。



## 2. インストールまたはアップグレード

ESMPRO/ServerAgent をインストールまたはアップグレードする手順を説明します。



チェック

ESMPRO/ServerAgent がインストールされているか確認するには、次のコマンドを実行します。

```
# rpm -qa | grep Esmpro-common  
Esmpro-common-"バージョン情報"
```

Esmpro-common のパッケージが表示された場合、ESMPRO/ServerAgent はインストールされています。

表示されたパッケージが"Esmpro-common-4.6.3-1"の場合、アップグレードは不要です。



チェック

ESMPRO/ServerAgent のアップグレードではサービスを停止します。プロセス監視製品を導入されている場合、アップグレード中に検知しないように対処してください。



チェック

Federal Information Processing Standard (FIPS)モードが有効の場合、以下の手順で実施してください。

1) rpm パッケージの検証レベルを確認します。

```
# rpm --eval "%{ pkgverify level}"  
all / signature / digest
```

2) rpm パッケージの検証レベルを none にします。

- /etc/rpm/macros.verify が存在しない場合、以下を実行します。

```
# echo "%_pkgverify_level none" > /etc/rpm/macros.verify  
# cat /etc/rpm/macros.verify  
%_pkgverify_level none
```

- /etc/rpm/macros.verify が存在する場合、

vi などのテキストエディタで以下の行を追加します。

```
%_pkgverify_level none
```

3) rpm パッケージの検証レベルを確認します。

```
# rpm --eval "%{_pkgverify_level}"  
none
```

4) ESMPRO/ServerAgent をインストールまたはアップグレードします。

5) 手順 2)で変更した rpm パッケージの検証レベルを戻します。

- 手順 2)で/etc/rpm/macros.verify が存在しなかった場合、作成したファイルを削除します。

```
# rm /etc/rpm/macros.verify  
rm: remove regular file '/etc/rpm/macros.verify'? y
```

- 手順 2)で/etc/rpm/macros.verify が存在していた場合、vi などのテキストエディタで以下の行を削除します。

```
%_pkgverify_level none
```

- 6) rpm パッケージの検証レベルが手順 1)と同じか確認します。

```
# rpm --eval "%{ pkgverify level}"  
all / signature / digest
```



- ・ Federal Information Processing Standard (FIPS)モードが有効の場合

ESMPRO/ServerAgent のインストールの処理が途中で進まない場合は、インストールの処理を強制終了<Ctrl>+<c>してください。その後、上記の[チェック]にある「Federal Information Processing Standard (FIPS)モードが有効の場合」の手順で実施してください。



以下の手順は、光ディスクドライブのマウント元を"/dev/sr0"、マウント先を"/media/cdrom"として説明しています。

マウント先が異なる場合は、以下の手順を適宜読み替えて作業してください。また、環境により光ディスクドライブが自動マウントされる場合があります。その場合は、マウントの必要はありません。

1. root ユーザーでログインします。
2. 光ディスクドライブに「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS」または「他社機版 ESMPRO/ServerAgent」CD をセットします。
3. マウントポイントを作成します。

```
# mkdir /media/cdrom
```

4. 「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS」または「他社機版 ESMPRO/ServerAgent」CD をマウントします。

```
# mount -r -t iso9660 /dev/sr0 /media/cdrom
```

5. インストールする場合は、ESMPRO/ServerAgent が格納されているディレクトリへ移動し、rpm コマンドでインストールします。

```
# cd /media/cdrom/lnx/esmpro_sa/x86_64  
# rpm -ivh Esmpro-*
```

アップグレードする場合は、ESMPRO/ServerAgent が格納されているディレクトリへ移動し、rpm コマンドでアップグレードします。

```
# cd /media/cdrom/lnx/esmpro_sa/x86_64  
# rpm -Uvh Esmpro-*
```

6. 以下のコマンドで、ESMPRO/ServerAgent 日本語設定ツールを実行します。

```
# cd /media/cdrom/lnx/esmpro_sa/  
# sh esmset.sh
```

7. 以下のコマンドで、Product Name, Product Manufacturer, Chassis Type を半角英数字で設定します。

```
# cd /opt/nec/esmpro_sa/tools
# ./sethwinf
Product Name          (既定値 : Other 入力可能最大数 : 半角英数字 79 文字)
Product Manufacturer  (既定値 : Other 入力可能最大数 : 半角英数字 79 文字)
Chassis Type          (既定値 : 4 = Other)
```



Product Name は、物理環境ではサーバーのモデル名(例 : Express5800/xxxx)を入力してください。仮想環境では仮想基盤名(例 : VMwareN.N)を入力してください。

Product Manufacturer は、メーカー名(例 : NEC)を入力してください。

Chassis Type は、サーバーの筐体タイプを[1: Tower, 2: Rack, 3: Desktop, 4: Other]から選択してください。

8. 光ディスクドライブから「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS」または「他社機版 ESMPRO/ServerAgent」CD を取り出します。

```
# cd / ; eject /media/cdrom
```

※eject コマンドが使用できないときは、アンマウントし、手動で光ディスクドライブから「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS」または「他社機版 ESMPRO/ServerAgent」CD を取り出してください。

9. ESMPRO/ServerAgent の起動と snmpd を再起動します。

```
# /opt/nec/esmpro_sa/bin/ESMRestart start
# systemctl restart snmpd.service
```

以上で、ESMPRO/ServerAgent のインストールは完了です。

## 3. インストールを終えた後に

ESMPRO/ServerAgent のインストールを終えた後に必ずお読みください。

### 3.1 インストール後の設定

インストール後の設定は次のとおりです。

#### 3.1.1 アクセス制御の設定

ESMPRO/ServerManager (以降、ESMPRO/SM と表記)から ESMPRO/ServerAgent (以降、ESMPRO/SA と表記)がインストールされたサーバーを監視するとき、以下のポートを利用しています。お使いのサーバー環境でアクセス制御の設定をされるときは、これらへのアクセスを許可する設定にしてください。また、表中が「自動割当」のか所は、OS により使用可能なポートを一定の範囲内で割り振られます。そのため、固定することはできません。ポートの範囲は次のファイルを参照してください。

```
# cat /proc/sys/net/ipv4/ip_local_port_range
```

#### ■ ESMPRO/SA ↔ ESMPRO/SM

| 機能                                             | ESMPRO/SA | 方向     | ESMPRO/SM | 備考        |
|------------------------------------------------|-----------|--------|-----------|-----------|
| 自動登録(SNMP)<br>サーバー監視(SNMP)                     | 161/udp   | ←<br>→ | 161/udp   | snmp      |
| マネージャ通報(SNMP)                                  | 自動割当      | →      | 162/udp   | snmp-trap |
| マネージャ通報(TCP/IP in Band,<br>TCP/IP Out-of-Band) | 自動割当      | →<br>← | 31134/tcp |           |

※マネージャ経由の通報を使用する場合は、ESMPRO/SM 側に WebSAM AlertManager が必要です。

※方向が双方向のか所は、上段の矢印は通信を開始した方向を示し、下段は折り返しの通信を示します。

※マネージャ通報(TCP/IP)で使用するポート番号は、通報の設定画面より変更できます。

※iptables または firewalld を使用したポートの開放例は以下のとおりです。

使用しないサービス(iptables または firewalld)は停止してください。

・ iptables を利用したポートの開放例は以下のとおりです。

事前に iptables または iptables-services のインストールが必要です。

```
# iptables -I INPUT -p udp --dport 161 -s <ESMPRO/SM の IP アドレス> -j ACCEPT
# iptables -I OUTPUT -p udp --dport 161 -j ACCEPT
# iptables -I OUTPUT -p udp --dport 162 -j ACCEPT
# iptables -I OUTPUT -p tcp --dport 31134 -j ACCEPT
# service iptables save
```

・ firewalld を使用したポートの開放例は以下のウェブサイトを参照して、使用するポートを解放してください。

Linux サービスセット : firewalld (ファイアウォール機能) の基本的な使用方法について教えてください。【Linux サービスセットご契約のお客様限定】

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3150110809>

※TCP Wrappers を使ったアクセス制御をするときは以下のウェブサイトを参照して、使用するポートを解放してください。

Linux サービスセット : /etc/hosts.deny、/etc/hosts.allow を使ったアクセス制限(TCP wrappers)の方法を教えてください。【Linux サービスセットご契約のお客様限定】

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3150005102>

ESMPRO/ServerAgent は以下の内部ポートを使用しています。iptables や TCP Wrapper を使ったアクセス制御をするときは、これらへのアクセスを許可する設定にしてください。

■ ESMPRO/SA ↔ ESMPRO/SA

| 機能                 | ポート番号   |
|--------------------|---------|
| rpcbind            | 111/tcp |
|                    | 111/udp |
| ESMPRO/ServerAgent | 自動割当    |

※iptables を利用したポートの開放例は以下のとおりです。

使用しない場合、サービス(iptables)は停止してください。

事前に iptables または iptables-services のインストールが必要です。

```
# iptables -A INPUT -i lo -j ACCEPT
```

```
# service iptables save
```

※TCP Wrappers を使ったアクセス制御をするときは以下のウェブサイトを参照して、使用するポートを解放してください。

Linux サービスセット : /etc/hosts.deny、/etc/hosts.allow を使ったアクセス制限(TCP wrappers)の方法を教えてください。【Linux サービスセットご契約のお客様限定】

<https://www.support.nec.co.jp/View.aspx?id=3150005102>

### 3.1.2 SELinux の設定

SELinux の設定は以下のとおりです。



SELinux の設定を「無効(Disabled)」以外に設定されている場合は、SELinux のポリシー設定ファイルで適切なセキュリティコンテキストの設定を行わないと、利用するソフトウェアでセキュリティ違反の警告またはエラーが発生し、正常に動作しない可能性があります。

「無効」以外を使用する場合は、SELinux のセキュリティコンテキストについて十分ご理解の上、設定を変更してください。

1. root ユーザーでログインします。
2. SELinux のカレント設定を確認します。

- ・ カレント設定が「無効」の場合は、次のように表示されます。

```
# getenforce
Disabled
```

- ・ カレント設定が「有効」の場合は、次のように表示されます。

```
# getenforce
Enforcing
```

- ・ カレント設定が「警告のみ」の場合は、次のように表示されます。

```
# getenforce
Permissive
```

3. /etc/sysconfig/selinux をエディターで開き、以下の行を探します。

```
SELINUX=<カレント設定>
```

4. 上記の行を編集し、ファイルを保存します。
- ・「無効」にする場合は、以下に変更します。

```
SELINUX=disabled
```

- ・「有効」にする場合は、以下に変更します。

```
SELINUX=enforcing
```

- ・「警告だけ」にする場合は、以下に変更します。

```
SELINUX=permissive
```

5. 「有効」の場合、以下のコマンドを実行し、snmpd\_t を permissive にします。

```
# semanage permissive -a snmpd_t
```



semanage コマンドが見つからない場合は、policycoreutils-python-utils パッケージをインストールしてください。



audit パッケージをインストールがインストールされている場合は、SELinux に拒否されるアクションを表示できます。

```
# ausearch -m AVC,USER_AVC,SELINUX_ERR,USER_SELINUX_ERR -ts today
```

setroubleshoot-server パッケージがインストールされている場合は、以下のコマンドを実行し、syslog から確認できます。

```
# grep "SELinux is preventing" /var/log/messages
```

6. システムを再起動します。

```
# reboot
```



SELinux が「有効」の場合は、setroubleshoot プロセスにより、snmpd に関するログが syslog に記録されます。以下の対処を実施してください。

```
# ausearch -c 'snmpd' --raw | audit2allow -M my-snmpd
```

```
# semodule -X 300 -i my-snmpd.pp
```

ausearch コマンドが見つからない場合は、audit パッケージをインストールしてください。semodule コマンドが見つからない場合は、policycoreutils パッケージをインストールしてください。

## 3.2 マネージャ通報(SNMP)の設定

ESMPRO/ServerAgent から ESMPRO/ServerManager へ通報するためには、「通報設定機能」で通報手段を設定する必要があります。以下にマネージャ通報(SNMP)の設定を記載しておりますが、他の通報手段の設定方法は「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS」または「他社機版 ESMPRO/ServerAgent」CD に格納されている「ESMPRO/ServerAgent for GuestOS, 他社機版 ESMPRO/ServerAgent ユーザーズガイド (Linux 編)」を参照してください。

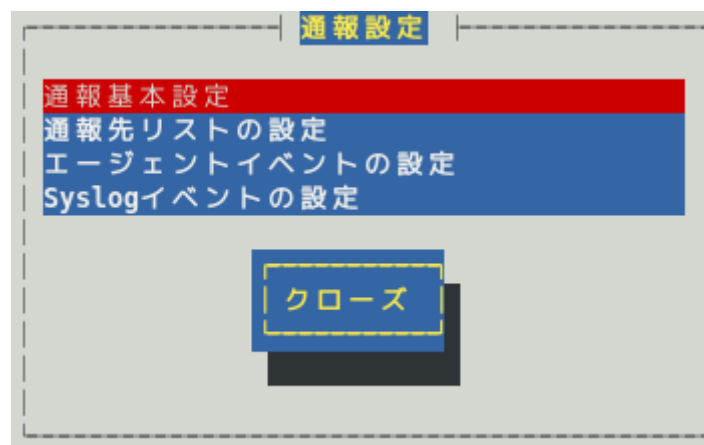
1. root ユーザーでログインします。
2. ESMamsadm が格納されているディレクトリに移動します。

```
# cd /opt/nec/esmpo_sa/bin/
```

3. コントロールパネル(ESMamsadm)を起動します。[通報設定]画面が表示されます。

```
# ./ESMamsadm
```

4. [通報設定]画面[の通報基本設定]を選択します。[通報基本設定]画面が表示されます。



5. [マネージャ通報(SNMP)]を選択します。[SNMP トラップ設定]画面が表示されます。

6. <追加>を選択して、通報先の IP アドレスを追加します。

7. [ok]を選択して、[SNMP トラップ設定]画面を閉じます。
8. [クローズ]を選択して、[通報基本設定]画面を閉じます。
9. [クローズ]を選択して、[通報設定]画面を閉じます。



# ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5 他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5

# 3

## アンインストール

ESMPRO/ServerAgent のアンインストールについて説明します。

### 1. アンインストール

ESMPRO/ServerAgent のアンインストール手順について説明しています。

---

# I. アンインストール

---

ESMPRO/ServerAgent をアンインストールする手順を説明します。

1. root ユーザーでログインします。
2. ESMPRO/ServerAgent をアンインストールします。

```
# rpm -e Esmpro-commonExtend  
# rpm -e Esmpro-common
```

以上で、ESMPRO/ServerAgent のアンインストールは完了です。

# ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5 他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5

---

# 4

## 付 録

ESMPRO/ServerAgent について説明します。

### 1. ライセンス条文

ESMPRO/ServerAgent が使用しているソフトウェアのライセンス条文を記載しています。

---

# I. ライセンス条文

---

## Net-SNMP License (対象 OSS 名 : Net-SNMP-5.9.4)

Various copyrights apply to this package, listed in various separate parts below. Please make sure that you read all the parts.

---- Part 1: CMU/UCD copyright notice: (BSD like) ----

Copyright 1989, 1991, 1992 by Carnegie Mellon University

Derivative Work - 1996, 1998-2000

Copyright 1996, 1998-2000 The Regents of the University of California

All Rights Reserved

Permission to use, copy, modify and distribute this software and its documentation for any purpose and without fee is hereby granted, provided that the above copyright notice appears in all copies and that both that copyright notice and this permission notice appear in supporting documentation, and that the name of CMU and The Regents of the University of California not be used in advertising or publicity pertaining to distribution of the software without specific written permission.

CMU AND THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA DISCLAIM ALL WARRANTIES WITH REGARD TO THIS SOFTWARE, INCLUDING ALL IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS. IN NO EVENT SHALL CMU OR THE REGENTS OF THE UNIVERSITY OF CALIFORNIA BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM THE LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THIS SOFTWARE.

---- Part 2: Networks Associates Technology, Inc copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2001-2003, Networks Associates Technology, Inc  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

\* Neither the name of the Networks Associates Technology, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

----- Part 3: Cambridge Broadband Ltd. copyright notice (BSD) -----

Portions of this code are copyright (c) 2001-2003, Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* The name of Cambridge Broadband Ltd. may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

----- Part 4: Sun Microsystems, Inc. copyright notice (BSD) -----

Copyright © 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

Use is subject to license terms below.

This distribution may include materials developed by third parties.

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo and Solaris are trademarks or registered trademarks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* Neither the name of the Sun Microsystems, Inc. nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

----- Part 5: Sparta, Inc copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2003-2009, Sparta, Inc  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

\* Neither the name of Sparta, Inc nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

----- Part 6: Cisco/BUPTNIC copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) 2004, Cisco, Inc and Information Network  
Center of Beijing University of Posts and Telecommunications.  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* Neither the name of Cisco, Inc, Beijing University of Posts and Telecommunications, nor the names of their contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

----- Part 7: Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG copyright notice (BSD) -----

Copyright (c) Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG, 2003

oss@fabasoft.com

Author: Bernhard Penz

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* The name of Fabasoft R&D Software GmbH & Co KG or any of its subsidiaries, brand or product names may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDER ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 8: Apple Inc. copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2007 Apple Inc. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of Apple Inc. ("Apple") nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY APPLE AND ITS CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL APPLE OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL,



SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

---- Part 9: ScienceLogic, LLC copyright notice (BSD) ----

Copyright (c) 2009, ScienceLogic, LLC  
All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

- \* Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
- \* Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
- \* Neither the name of ScienceLogic, LLC nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDERS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

ESMPRO/ServerAgent for GuestOS Ver.1.5  
他社機版 ESMPRO/ServerAgent Ver.1.5  
インストールガイド(Linux 編)

日 本 電 気 株 式 会 社  
東京都港区芝五丁目 7 番 1 号  
TEL (03) 3454-1111 (大代表)

© NEC Corporation 2026

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。